

小児の心身障害予防、治療システムに関する研究 平成4年度総括研究報告

加藤精彦

本年度より新しく開始された”小児の心身障害予防、治療システムに関する研究”は小児の心身障害の発症予防、治療、並びに生活管理等に関わる種々の因子、この中には生活環境の問題や運動がスムーズに行える様々な補装具の改善などを含めた幅広い施策を、子供の病気の状態を考慮にいれて行うことは、その実態も含めて未だ充分検討されていない部分も多いことから、特にこれらの因子による子供への影響を研究することを目的として発足したものである。

構成は下記の7班から成り、従来から種々研究され検討はされてきているが未解明の部分の多い川崎病やSIDS等の疾患に加えて、最近特に注目されているDeath Educationの本邦におけるあり方、小児長期療養児等の心理的問題、生活管理、運動指導等の問題点と適正な指導法の確立、更に小児の補装具使用者並びに介護者から見たより適正な補装具使用のためなすべきことがらについて研究を進めて行った。各研究班の課題と分担研究者は以下の如くである。

- | | |
|----------------------------|-------|
| I. Death Education に関する研究 | 西村昂三 |
| II. 心身障害児の運動指導、生活管理に関する研究 | 近藤健文 |
| III. 川崎病のサーベイランスに関する研究 | 加藤裕久 |
| IV. 長期療養児の心理的問題に関する研究 | 西間三馨 |
| V. 乳児突然死症候群(SIDS)に関する研究 | 仁志田博司 |
| VI. 小児の補装具に関する問題点 | 千野直一 |
| VII. 内分泌疾患患児の生活管理、指導に関する研究 | 田中敏章 |

以上の各班の本年度の主要な研究成果の要約を簡単に付記するが、詳細はそれぞれの該当部分の報告を御覧頂きたい。

Death Education に関する研究（西村班）では、社会的、宗教的な面から欧米とは同じレベルでは考え難いこと、しかし、患児と両親の治療への協力を得るためには疾病教育の充実が強く望まれ、また臨死患児のケア改善のために医療施設の利用法を再考する

ことが必要とされた。心身障害児の運動指導、生活管理に関する研究（近藤班）では慢性疾患児のQOL直視したトータルケアを進めるため、運動指導および生活管理を行うマニュアル作成のための基礎的検討を開始した。川崎病のサーベイランスに関する研究（加藤班）は5つのプロジェクトを設定し、その目的、目標及び初年度の研究が続けられ、全国調査（12回）、早期発見、病因、病態の研究、長期追跡、また研究教育用の小冊子の作成、更に医療経済学的分析に関する研究が報告された。長期療養児の心理的問題に関する研究（西間班）は長期療養児の実態を文献検索、予備調査から検討し、特に心理的問題解明のためのプロトコール作成を試みた。乳児突然死症候群(SIDS)に関する研究（仁志田班）は、平成4年度は、未だその原因が明らかでないが、脳幹部における自律神経系調節機構の微細な機能異常による覚醒反応の低下によるとする観点から、育児環境がSIDSの発生頻度に大きく影響するか調査を行うと共に、気道抵抗に対する対する反応性を見る方法の解決に今後努力していく。内分泌疾患患児の生活管理、指導に関する研究（田中班）では、下垂体性小人症の成長ホルモン治療に関連して、治療後一定の身長増加が得られた人は社会的適応は良いが、二次性徴の悩みが多く、他方一定の身長増加が得られなかった患者では社会的適応に問題があることが明らかとなった。小児の補装具に関する問題点（千野班）では、文献検索およびアンケート調査を実施し、補装具の認可プロセスの全面的な見直し、支給対象の拡大、補装具そのものの改良、研究開発の推進、医療側、患者家族側のコミュニケーションの確立の必要性が明らかとなった。

初年度の研究班も多く、実態解明の基礎的調査、或いは分析に多くの時間をとられた班もあるが、今後の研究の展開のためには貴重な資料の得られたものも少なくなく、また研究が継続されている課題については、新しい工夫により、より解明が進んでいることは喜ばしく思っている。各班とも最終的患児や家族或いは介護者に対して、小児慢性疾患療養児の生活管理、指導指針が完成し、Quality of Lifeに対する支えになることを強く願っている処である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本年度より新しく開始された"小児の心身障害予防、治療システムに関する研究"は小児の心身障害の発生予防、治療、並びに生活管理等に関わる種々の因子、この中には生活環境の問題や運動がスムーズに行える様々な補装具の改善などを含めた幅広い施策を、子供の病気の状態を考慮にいれて行うことは、その実態も含めて未だ充分検討されていない部分も多いことから、特にこれらの因子による子供への影響を研究することを目的として発足したものである。

構成は下記の7班から成り、従来から種々研究され検討はされてきているが未解明の部分の多い川崎病や SIDS 等の疾患に加えて、最近特に注目されている Death Education の本邦におけるあり方、小児長期療養児等の心理的問題、生活管理、運動指導等の問題点と適正な指導法の確立、更に小児の補装具使用者並びに介護者から見たより適正な補装具使用のためなすべきことがらについて研究を進めて行った。各研究班の課題と分担研究者は以下の如くである。